

第3章 基本理念と計画の目指すところ

1 基本理念、将来都市像

いままでの観光業とは、宿泊、飲食、販売、交通といった観光の中核を担う業種を指してきました。これからの観光業には、この地で醸成されたあらゆる産業や活動、そして生活そのものを人びとの交流を担う資源として位置づける必要があります。下田にとって観光とは、農林水産業、商業、製造業に至るすべての地域産業の魅力づくりであり、まちづくりそのものであることから、第4次下田市総合計画に掲げられたまちづくりの基本理念と将来都市像を本計画においても継承するものとします。

(基本理念) 「下田を愛する、市民を始めとする幅広い人の参加により、
本市の持つ自然や歴史、文化を活用し、
市民一人ひとりが誇りを持って暮らすことのできるまちづくり」
(将来都市像) 自然と歴史を活かし、やすらぎと活力のある美しいまち

2 計画の目指すところ

基本理念を踏まえ、将来都市像を具体化するために、本計画の目指すところを以下に示します。

暮らす人も、訪れる人も快適なまち「快国」下田

観光を柱とした下田のまちづくりは、下田のまち全体を元気にするためのものです。

観光客は非日常を求めています。それは下田市民の日常ですから、下田市民の日常が豊かでなければ、観光客が満足することはできません。

市民の日々の営みが価値ある交流を産み、**新しい次元**でこのまちの豊かさを実感できる観光まちづくりを推進し、「暮らす人も、訪れる人も快適なまち『快国』下田」の実現を目指します。

3 基本方針

観光まちづくりを実践するためには、第一に、まちや地域の特色や個性を認識し、第二に、その魅力を市民総ぐるみで磨き、第三に、その魅力を発信するという一連の行動をまち全体で実践していくことが必要となります。また、一連の行動を実践する過程においては、産業就業人口の減少や高齢化などの現実を真摯に受け止めるとともに、それらの社会的要因を克服し、より多くの市民が元気を取り戻すための施策を展開する必要があります。

そこで、「暮らす人も、訪れる人も快適なまち『快国』下田」を実践するための基本的な方針を以下に示します。

方針1 下田らしい観光まちづくりを実践します。

(1) 地域の特徴を活かした魅力ある観光まちづくりを進めます。

本市には豊かな自然が残され、市民の生活や経済的基盤を支えるとともに、訪れる人への大きな魅力にもなっています。この貴重な財産や下田まち遺産を将来に継承するとともに、人と自然が共生できる豊かな自然や美しい景観などを活かしたまちづくりを進めます。

また、本市は古来より海とのつながりの中で特色ある歴史や文化があり、特に幕末のペリー来航による日本開国の歴史の表舞台として国内外に知られています。これらの貴重な歴史的資源を守るとともに、市民や訪れる人が歴史や文化に親しみ、下田への誇りと愛着を持つことのできるまちづくりを進めます。

(2) 新たな魅力の創出によるまちの活性化を図ります

商店街や農漁村集落などの特色ある暮らしや文化・芸術などを観光資源として活用し、新たな魅力の創出に努めるとともに、水仙まつりやあじさい祭などの既存のイベントのリニューアルや新しいイベントの構築を行い、まちの活性化を図ります。

また、参加型の体験プログラムや着地型旅行商品の開発を促進し、市民や訪れる人が下田の魅力を満喫できるまちづくりを進めます。

(3) 外国人旅行者の誘致を進めます。

外国人旅行者が安心して快適に、移動・滞在・観光することができる環境を整備し、外国人旅行者の訪問を促進するとともに、満足度を高め、外国人旅行者が何度でも訪れたくなる、やさしいまちづくりを進めます。

また、下田の美しい海や町並みは、在日外国人から親しまれていることから、リゾート地としての魅力を磨くとともに、スポット型観光から滞在交流型観光への転換を進めます。

方針2 すべての市民が連携して観光まちづくりを進めます。

(1) 地域や各種産業が連携し、観光まちづくりを進めます。

下田らしい観光まちづくりを実践するためには、地域や各種産業そしてすべての市民が連携し、下田らしさにこだわる本物志向のまちづくりを推進する必要があります。

そのため、観光事業者、交通事業者、生産者や商業・まちづくり関係者などとの従来の枠にとらわれないネットワークを築き、すべての市民が連携して観光まちづくりを進めます。

(2) おもてなしの心を育み、市民と観光客の交流を進めます。

最高のおもてなしを実現するためには、観光客に下田の本当の魅力や価値を伝える必要があります。すべての市民や事業者が下田の魅力を知るとともに、下田で暮らし、営むことに誇りを持ち、観光客との交流ができるまちづくりを目指し、市民のおもてなしの心を育みます。

(3) 誰もが安全で快適に楽しめる観光空間を整備します。

市民の身近な生活環境や市民生活の安全性の確保は、観光客の快適で安全な観光空間と密接に関連しています。市民が健やかに安心して暮らし、訪れる人も安全で快適に楽しめる観光空間を整備します。

方針3 まちのブランド化を進め、情報発信機能を強化します。

(1) まちのブランド化を進めます。

下田の持つ多様な自然や暮らし、歴史、文化、産品等の資源を磨き、他地域とは差別化された価値的優位を確立するとともに、観光客に期待以上の価値を持続的に提供することにより、まち全体のブランドイメージを確立します。

(2) まち全体のブランドイメージを積極的に発信します。

まち全体のブランドイメージを確立するため、様々な媒体を通じ、各種イベントやまちの魅力を積極的に発信します。

また、ツイッターやフェイスブックに代表されるソーシャルメディアは、重要な情報伝達の一つとなっており、今後も広がりが期待できます。ソーシャルメディアは、手軽に広範かつ瞬時に情報が伝わる優れた特性がある一方でリスク対策も必要なことから、その特性を調査研究し、効果的で有効な活用方法を検討します。

(3) 広域組織等と連携し積極的に情報を発信します。

金融危機や東日本大震災の影響はあるものの、全国的に人気の高い温泉地に比べ、伊豆全体のブランドイメージの低下が懸念されます。

伊豆全体のブランドイメージを確立し、周遊性を高めるため、伊豆地域の多様な魅力を周辺市町と連携し発信します。